

安全教育



第28号

平成19年
2月28日発行
発行責任者
略 文隆

財団法人 横浜市安全教育振興会 横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内
〔事務局〕 〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831



横浜市教育委員会教育長
押尾 賢一

日頃より、子どもたちの健やかな成長を願い、子どもたちの安全確保のために様々な取り組みをされている財団法人横浜市安全教育振興会の皆様に対し、深く感謝申し上げます。また、昨年、貴会が設立されて20年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げますとともに、皆様が承きにわたり、子どもたちの安全を守るため御尽力いただいたことに心から敬意を表します。

さて、わが国におきましては、都市化、少子高齢化、核家族化、情報化などが急激に進み、これら社会情勢の変化に伴い、地域社会における地縁的なつながりや人間関係が希薄化するなか、家庭、地域の教育力の低下が指摘されてきました。

また、子どもたちについても、このような社会情勢の変化に呼応するかのように、規範意識や基本的な生活習慣の欠如、学力や体力の低下、学習意欲やコミュニケーション能力の不足など様々な課題が顕在化しています。

このような中、昨年10月には内閣総理大臣や有識者などで構成する「教育再生会議」が発足し、また12月には、21世紀の日本にふさわしい教育の基本の確立と振興を図るため、教育基本法が改正されるなど、いまや教育問題への対応が国民的課題となっています。

本市におきましても、多くの学校で、「数多くの優れた教育活動」、「保護者や地域等の理解と協力」、「日々真摯に子どもと向き合う教職員の取り組み」、「教職員による活発な教科等の研究活動」などが展開されてきましたが、一方で、近年は「保護者が求めるものの多様化」、「子どもの学力や体力の低下の懸念」、「障害の重度・重複化、不登校・いじめ・暴力の問題」、「教職員の人材確保・資質向上への要請」、「防犯・防災意識の向上」、「1つの教育委員会が515校の学校を所管していること」などの現状への対応が強く求められるようになってきました。

教育委員会では、このような横浜の教育を取り巻く状況を踏まえ、昨年3月の横浜教育改革会議からの最

子どもたちが健やかに育つていくために

終答中を受け、教育が果たしている普遍的な役割に加え、横浜が目指す「人づくり」の観点から、「横浜の子ども」を育むために大切にすべき基本、目標、取組方針などを分かりやすくまとめた「横浜教育ビジョン」を昨年10月に策定しました。

このビジョンでは、教育の使命を「子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むことで、人格の完成を目指し、社会を担う者としての資質を身につけた市民を育成すること。」と位置づけました。この教育の使命を実現するために、横浜の教育では、「知（幅広い知識と教養）」、「徳（豊かな情操と道徳心）」、「体（健やかな体）」、という3つの基本と、「公（公共心と社会参画意識）」、「開（国際社会に寄与する開かれた心）」という2つの横浜らしきをもっとも大切にしながら、「横浜の子ども」を育てていくこととしています。

このビジョンの実現に向け、平成18年度から平成22年度までの5年間の取組の工程を明らかにする「推進プログラム」を1月末に策定しました。推進プログラムに掲げた事業を進める中で、時代の変化に対応でき、自分の人生を切り開いてゆく力を身につけ、社会の一員としての責務を果たすことのできる「横浜の市民」を育成してまいります。

子どもたちの安全や健全育成の面では、相変わらず児童虐待、連れ去り、誘拐などの事件が多発する一方で、犯罪の低年齢化や、いじめによる自殺や不登校なども、深刻な問題となっています。

教育委員会におきましては、このような事態に的確に対応するため、昨年12月には、いじめの問題の解消と生命の大切さについて、子どもたちが保護者と共に話し合い、共に考えていくため『教育委員会メッセージ』を作成し、全家庭に配布したのをはじめ、この1月22日からは「いじめ110番」の相談を24時間対応いたしました。

また、保護者や地域住民による学校安全ボランティア団体「よこはま学援隊」の活動についても、平成22年度までに全小学校で実施することとしており、保護者・地域と連携して、子どもたちの安全を確保していきます。

これからも、開かれた学校づくりを進め、PTAや地域、市民団体などとの協働のもと、子どもたちが安心して、健やかに、たくましく成長していける横浜の教育を目指し、取り組んでまいりますので御支援及び御協力をお願いいたします。

最後に、財団法人横浜市安全教育振興会のますますの御発展と御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

祝！ 20周年財団法人横浜市安全教育振興会

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

11月29日、横浜の大機橋ホールにて財団法人横浜市安全教育振興会の設立20周年記念式典が華やかにかつ厳かに執り行われました。横浜市の教育関係者や保護者ら参加者も600名を越え、設立20周年にふさわしい式典になったことをご報告いたします。

設立20周年記念式典

日時 ● 平成18年11月29日(水)午後3時～
会場 ● 大機橋ホール
次第
第一部 ● 記念式典
第二部 ● 記念講演『桂米助師匠』
第三部 ● 祝賀会

第一部 記念式典

感謝状

厳肅な雰囲気の中、開式の言葉、国歌斉唱、横浜市歌斉唱と続き、当会理事長増文隆の喜びあふれた挨拶を皮切りに、横浜市副市長前田正子様、横浜市立小学校長会会長小島勝様、横浜市PTA連絡協議会会長鈴木由香様などさまざまな方から感謝とお祝いの言葉をいただき、設立20周年という大きな節目を実感いたしました。皆様よりのお言葉にありました「今後への期待」を裏切らぬよう心を尽くす所存です。また、横浜市副市長前田正子様よりは、中田横浜市長の代行という形で、増理事長に、長年に渡る功績を称え、感謝状が授与されましたことは大きな誉れであります。続いて各代の理事長への感謝状贈呈へとつながり、華やいだ雰囲気の中にも、静かな緊張感の漲りに大きな感動を覚えたものです。昭和62年からの歩みには、さまざまな苦勞もありましたが、子どもたちのための安全教育の普及事業という大きな目的のために、尽力して参りましたことは、自負できるものと思います。この安全教育振興会の20年の足跡にある、安全教育の普及をさらに充実させることを新たに誓い、式典を終えました。



第二部 記念講演 ケイショウとケイショウ

記念講演は3時45分よりヨネスケ師匠を迎え、「親子 共に学ぶ」と題しておこなわれました。さすが落語家、と感心しきりの面白いお話で、あっという間の1時間。笑いのなかに「日本文化」への警鐘が重くあったことが印象深く残っています。ではヨネスケ師匠のお話をご紹介します。

話は年をとると女の方がしっかりしているという前置きから始まりました。そして、TVでおなじみの「突撃！隣の晩ごはん」のいくつかのエピソードが披露され、その「隣」における人間の関連性に話は及び、本来はそれが日本人の「形」であったと結論づけられたのです。今、日本人は絆を失っている、それは家族で食事をしていないという現象に象徴されるのでしょうか。食事というキーワードを示し、日本の食文化に話は移りました。関東と関西の食の相違、出鱈目、鯨腹の言葉の出自などなど。日本の食文化の豊かさが、話の軽妙さの中にしっかりと根付いていたのは落語家ならではの話術のうまさでしょうか。さて、これからどんな話の展開になるのかと思っておりますと、話は顔の骨格に移っていきました。現代人は「あご」がなくなっている。それは柔らかいものが好きな、子どもに嗜好を合わせた食事になっていることが原因であると師匠は分析します。昔は固いものを食べ、奥歯をかみしめたものだが、スーパースターはみんな顎がある、確かに、師匠のいう王貞治さん、荒川静香さんなどはあごのしっかりしたエラの張った顔であることは納得。食べ物は固いものを食べることも必要ですね。そして、訛りは国の手形という言葉から、お国言葉で笑わせ、半殺しという牡丹餅のエピソードをひとくさり。ここでも日本の食



文化の豊かさを証明されていました。さらに調理法に話が及び、日本文化の食のパリエーションの多さを「食文化は日本が世界最高！」と師匠はいうのです。しかし、他の文化は劣っているという現実。文化とは何か。文明との違いで説明を続けられました。文明とは暑い日にクーラーのスイッチをいれて涼しくなることであり、文化とは打ち水や簾、風鈴などの五感で涼しさを感じることであり、なるほどと納得顔の我々聴衆です。なくてもよいもの、が、心の余裕を生むのでしょうか。師匠はそれが文化であり、今の日本は文明国ではあるが、文化の国ではなくなっている、と一刀両断。また日本の独特の文化、例えば能・狂言・歌舞伎・着物…、今は廃れ始めています。復活には相当の時間と費用がかかります。それを考えるのであれば、継続することが必要であろう、と師匠は言います。そして我々、大人が子どもの代に伝えることが大切。二枚目、三枚目の語源は歌舞伎を知らなければ、途絶えてしまうのは必定。さらに師匠の嘆きは続きます。今の日本では落語もできなくなってきている、なぜなら「言葉」を知らないから。足袋のコハゼ、五徳、七輪…。日本の文化の中で息づく言葉の子々孫々伝えていくことの大切さを説かれました。まず自分がしゃべる、3人にしゃべればどんどん広がる、みなさん、お願いしますよ！とは師匠の言葉。また、昔の人の文化度の高さを祝儀の熨斗などの結び方などの日本独特の文化で証明され、形式美、様式美という言葉で日本文化を表されました。そのすばらしい文化を伝えていくこと、子ども・孫・曾孫に伝えていくことの重要性を訴えられたのです。そして「継続は力なり」という言葉で結ばれました。軽妙闊達な語り口で、楽しさ抜群の講演ではありましたが、そこにある師匠の文化への憧憬の深さ、教養の深さを感じるとともに、今の日本の現状を鋭く指摘され

る言葉の強さにも感銘を受けました。我々大人が子、孫、曾孫の世代に伝えていくことの必定性を改めて考えさせられました。親の世代もまた、日本文化には疎くなってきています。次の世代に伝えていくには、ここで勉強したことを基盤にして自分の教養、文化度を上げる必要があります。でも、ヨネスケ師匠はそんな野暮なことには言わないでしょう。

「難しいことなんかいらぬですよ、能、狂言、歌舞伎、相撲、そして落語、日本文化を楽しんでくださいよ！」そんな師匠の言葉が聞こえる気がします。そしてまた、その日本文化の継承を通じて、「親と子」の関係も正しく、楽しく形作られていくのでしょうか。日本文化への継承と警鐘そんなキーワードで表されるお話だったと思います。

日本文化の奥行きを感ずることのできた、安全教育振興会 20 周年のお祝いにもふさわしい記念講演でした。ヨネスケ師匠に花束と大きな拍手が贈られ、第二部は閉幕。

第三部 祝賀会

乾杯

午後6時、開会の言葉とともに、大磯橋ホールで祝賀会が開催されました。華やかな雰囲気の中、開会の言葉に続き、安全教育振興会理事長岩崎文隆の挨拶。関係諸機関、関係諸氏に対する感謝の言葉が述べられました。続いて横浜市教育長押尾賢一氏、安全教育振興会元理事長山野井正郎氏によるお祝いの言葉。そして横浜市立中学校長会会長黒川典功氏により乾杯の音頭がとられ、祝賀会は盛り上がり上がっていきました。盛大な賑わしの中に、20周年という時の流れの大きさが迫ってくるようでもありました。安全教育振興会のさらなる発展を誓い、20周年祝賀会は盛會のうちに終わることができました。ご参集いただきました関係諸機関、関係諸氏に深く感謝申し上げます。また地道な努力を積み上げ、横浜の子供たちのために安全教育の普及に務めることを改めて心しました。今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



「防犯・防災・交流」を「地域・保護者・卒業生・在校生」とともに

地域との触れ合いを深め、潜在力の引き出しと協働

横浜市立栗田谷中学校

1 地域防災訓練からの始まり

本校拠点の地域防災訓練が実施されたとき、その参加者に高齢者や婦人方が多く、いざというとき、どれだけの人々がここに集まり、災害に対しどんな活動が行われるのか気にかかった。更に、実際に地震等が発生する確率は、生徒たちが学校で生活している昼間にもある。働き盛りの成人が勤めや学校等に出ている時間帯であり、地域には、力となりうる人々が少ない時間といえる。そこに、中学生の活躍の場がないか、微弱なれど力となれることがないか、との発想が生まれた。

また、本校の職員室は2階にあり、生徒がよく行き来する1階部分の安全が心配であり、職員のパトロールが頼りであった。そんな状況の中、地域交流室の構想が出された。

2 地域交流室からの防犯・防災

地域交流室を1階に設置し、人の流れに、生徒だけの流れだけでなく大人の人の流れを加え、見守っていただくという発想であった。校内の余裕教室の活用と併せ、従前の図書室を2階に移し、開放型図書コーナーとして再生し、1階は地域交流室とした。

地域交流室を、生徒と地域の人々とのふれあいを深め、

- 地域に見守ってもらう、見守る、地域の力となる、郷土感のある生徒像を作り上げていく。
- 地域では、学校が取り持つ“縁”や“学び”を地域に生かし、学校参画を地域の教育力の再生に生かす。
- 学校は“地域資源”を生かした学校運営、“地域特性”に応じた学校運営を図る。

をめざし、防犯・防災・交流を地域・保護者・在校生だけでなく、卒業生も取り込んだ場づくりの拠点とすることとなった。

また、地域・同窓会・PTA役員OBを中心に、地域交流室準備委員会が組織され、運営規則等の規約作り、地域等への情報提供等が進められた。

9月には、体育祭で、準備委員会による地域交流室のお披露目・パンフ配布や説明が行われ、多数の保護者や地域の方々の参加があった。10月の文化祭では、地域、PTAの展示・休憩室として活用され、利用の活性化と紹介を図った。

11月には、地区別生徒会活動として、地区毎の防犯マップ制作と防災学習会が行われた。

防犯マップ制作では事前に、地区毎グループに分かれ、自分たちの住んでいる地域の中学生から見た危険な箇所のチェックをし、当日は制作した地図に記入し仕上げの作業を行った。地区によっては、昼と夜の風景を写真に撮るなど工夫した防犯マップが制作された。



防災学習では、地域交流室で、地域の人の講師による防災学習講座、グラウンドでは地域の人の指導による炊き出し体験を行った。炊き出しのご飯は、火傷しそうな熱さを我慢しておにぎりにし、当日実施されたPTAバザーのお客さんや生徒に配布した。その味は、「大変おいしい」と好評を得た。



3 まとめ

地域交流室をもとに、地域参画型の学校運営に足がかりができた。それも生徒の安心・安全への配慮を踏まえたものであった。交流室は、始まったばかりであり、活用も不十分であり課題も多い。地域参画のもと、生徒との触れ合いの場をどうコーディネートするかが大切である。

聴覚障害児教育における情報教育機器の活用

横浜市立聾学校

横浜市立聾学校では、聴覚に障害のある幼児児童生徒達が学習しています。聞こえない聞こえづらいという障害のある幼児児童生徒達に、視覚的情報を積極的に取り入れた分かりやすい授業の実践に取り組んでいます。

実践例

聾学校では、手話、口話、書記言語などさまざまな方法を使い、授業を行っています。生徒がより興味関心をもち積極的に学習するように、試行錯誤を重ね、PCとプロジェクターを使用したほぼ現在の形を整えました。

●教材作成

- ① 教科書の画像、図版のスキャナーでの取り込み。
- ② インターネットで関連する内容や画像の検索。
- ③ NHK教育番組 高校地理などの放送番組からの画像抽出。
- ④ ①、②、③を授業の流れにそって、パワーポイントでの構成。
- ⑤ 手話や口話を補充するものとしてポイントとなる語句、文章も随時挿入していく。
- ⑥ また、授業内容をまとめるために授業ごとの記入形式のプリントもあわせて作成しています。その授業プリントを基にした、小テストを作成し、何が重要なのか、生徒がフィードバックできるように配慮もしています。

効果

この実践の中で、教育効果があったと思われる内容をあげてみたいと思います。

教科書の画像、図版をPCに取り込み、プロジェクターで出力することにより、授業にダイナミックさが加わったことです。大画面は生徒の興味関心を強く引き出すこと、そして生徒と一緒に目線で見ることが出来るようになったことは、授業を進めていくなかで大変良かったことです。確実に教科書の画像や図版を生徒に注視させることが出来るようになり、その画像の

真横で授業者が手話と口話を使って授業を進めることが大変スムーズにできるようになりました。

また、情報量、経験の少ない聴覚障害児にとって、学習内容を言語や手話で説明するだけでなく、その象徴的画像を多く提示することにより、学習内容に関心を強く持ち、さらに理解が容易になったと思われます。



問題点

問題点としては、授業をパワーポイントで構成することは、1時間分の教材作りには大変な時間がかかることがあげられます。画像の抽出、それらを使って授業の構成をねりパワーポイントでの教材製作、プリントづくりなど、個人的な力量もあるでしょうが、かなりの時間を要してしまいます。

また、画面を見ることが多くなるので、「見ること」に疲れるという生徒からの訴えがありました。それには、画像を見えやすくするため、教室を暗くしがちなことも一因としてあげられます。教室の照明を落とさなくても投影できる光源の強いプロジェクターを使用することで対応できると思います。

まとめ

最近本校では、各教科とも、このような視覚的情報をふんだんに取り入れた授業が多く実践されるようになりました。更なる実践のためにプロジェクター、パソコンの需要が高くなり、どの教室でも使用できることが望まれるようになってきています。

子どもたちを被害者にも加害者にもさせないための「心の安全教育」

豊かさを求める生き方から自分らしい生き方へ

横浜市 PTA 連絡協議会

「教育」を取り巻く状況は、価値観の変化により大きく揺れ動き、子どもたちもストレスを感じる場面が多くなっています。今までは自分をリカバリー（回復）し、ゆったりとくつろげる場であった家庭がストレスの場に変った家庭も増え、外でも内でもストレスを受けている子どもたちのリカバリー不足が、意識の低下や、コミュニケーション能力の低下などにつながり、その結果として不登校、引きこもり、ニートなど様々な問題をかかえる状況になっているのではないのでしょうか。



そこで横浜市 PTA 連絡協議会では、ここ数年、子どもたちの生活環境の安全・安心を守るために、今、私たち保護者が何をすべきかについて取り組んできました。

まず現状を知るといことで、昨年11月1日、「PTA 交流研修会」において、横浜市教育委員会

小中学校教育課 児童・生徒担当 近藤昭一課長に、「子どもたちを加害者にも被害者にもさせない為に」というテーマで基調講演をお願いしました。講演では、子どもの問題行動の状況、昨今の暴力の変化や暴力行為へと繋がる過程の変化を知ることが重要。親や親以外の人たちによって情報を伝え合い、子どもたちを取り巻くコミュニティ作りが子育ての基本ではないかと方向が示されました。

それを受け、県青少年保護センター所長を交え、家庭教育におけるしつけ・愛情・基本的な生活について意見交換をおこないました。パネリストとして参加した鈴木会長も、「ありがとう」という

言葉の掛け合いが、温かい家庭を作り上げる第一歩、まず、私たちの家庭がどうあるべきかを考えることが大切だと提言しました。

また、今年1月22日には前回の取り組みを発展させるため、NPO ファミリーカウンセリングサービス所属講師 家族相談士 福岡佳世子先生を講師として迎え、「今、子どもたちが望んでいること」というテーマで、研修会を行いました。研修会には多くの会員が興味を持って参加し、講演後のアンケートを通して会員からの感想を集めることも出来ました。

その中でもっとも多かったのは、親子関係で自分が勘違いしていることがいかに多いか、思い知らされた。良いところを伸ばしてやれるように気をつけて子育てしていきたいと思う。家族（家庭）の大切さをあらためて感じたなど、現状を改善したいという前向きな感想で、この研修会を通して、家庭での子どもとの接し方や家族間のコミュニケーションの重要性を意識付けできたものと感じました。

また、今後取り上げてほしいテーマも、子どもの安全や犯罪（インターネット、携帯電話関係）、友達関係、家庭教育（不登校、食育、家族関係等）にあることがわかりました。

横浜市 PTA 連絡協議会では、これらの研修会での成果を各単位 PTA に拡げ、会員の意識をさらに高めるため、学校・家庭・地域との連携を計り、子どもたちの安全や心の安心を守る活動や、会員が共に学び育つ PTA 活動の充実を、全面的に支援したいと考えています。



安全教室の開催 (平成18年度)

	日 時	防災安全教室	救急法教室
第1回	平成18年 5月19日(金)	55名	52名
第2回	平成18年 6月 9日(金)	52名	52名
第3回	平成18年 6月30日(金)	49名	50名
第4回	平成18年 9月15日(金)	50名	52名
第5回	平成18年 9月29日(金)	47名	51名
第6回	平成18年11月10日(金)	45名	56名

■会 場

横浜市民防災センター

■内 容

- 【防災安全教室】 *防災講話
*地震体験
*消火器体験
*展示コーナー
- 【救急法教室】 *普通救命講習



今年度の「安全教室」につきましては、「防災安全教室」及び「救急法教室」とも300人余の参加者を迎え実施いたしました。この「安全教室」では、参加者個々の防災力の向上はもちろんですが、“子どもたちの安全を守るため”の大きな目標に立ち、安全を待ちの姿勢から実践の姿勢へと変革する取組みとして行っているものです。

昨今の子どもをターゲットにした陰湿な犯罪や子どもの安全を脅かすさまざまな事件・出来事は、社会全体から「生命観」なるものの認識が欠けてきていることの現れにほかなりません。現下、「防災」を学ぶことは、単に地震や風水害などの自然災害から身を守ることに他には、今ある、また現に発生している危機や危険にいかに対処しなければならないことも「防災」の一つとしてとらえ、学び得ていく必要があります。

「防災安全教室」では、地域の安全や防犯のまちづくり、一人ひとりの防犯対策、子どもを守り育てることを主に、日常の継続した実践や取組みを共有いたしました。また、「救急法教室」では、救命率の向上として、救急車が来るまでの間に「何ができるのか」の救命技術(3時間講習)を学びました。特に「救急法教室」では、修得した技能や生命(いのち)の重さの実感を、次の人につなげてゆくことも修得者として必要であり、また子どもたちにも生命の尊さを伝えていく必要があります。こうした連鎖により、失いかけている「生命観」の欠如を少しでも補うことができたなら、「安全教室」は立派に目標を達成した取組みであったと思います。

(文責：安全管理局横浜市民防災センター担当係長 北 島 武)

第20回

「健康と安全」

写真の部

- 応募点数 14点
- 受賞作品 特別賞6点 入選1点 佳作7点

- 審査員 西村 建子 日本写真家協会会員
- 新井 秀幸 日本商業写真家協会会員

ポスターの部

- 応募点数 463点
- 受賞作品 特別賞16点 入選20点 佳作20点

- 審査員 横浜市立小学校区画工作研究会長 渡邊千恵子 横浜市立二谷小学校長
- 横浜市立中学校美術研究会会長 高山 崇 横浜市立日野南中学校長

●横浜市長賞

写真の部



「亀だ、三兄弟」
洋光台第一中学校2年 市川 颯廉

ポスターの部



「健康だいち」
本郷中学校2年 長谷川 美穂

●横浜市教育委員会 教育委員長賞

写真の部

「みんなひっばれ！どこまでも」
洋光台第一中学校1年 稲葉 望

ポスターの部



「健康第一」
本郷中学校2年 米本 理乃



「スピードを出すな」
中丸小学校3年 内田 諒哉



「地球は火の星になる」
幸ヶ谷小学校6年 関谷 日向

写真・ポスター展

展示期間：平成18年12月4日（月）
～12月9日（土）
展示会場：横浜市教育文化センター内
広報センター広報展示場

●横浜市教育委員会 教育長賞

写真の部



「リハーサル」
南中学校 教職員 下川 功男

ポスターの部



「まちがえないで正しくね」
つつしが丘小学校6年 保坂 梨乃子



「恐怖の酸性雨」
上菅田中学校2年 菅本 恵里佳



「地球の叫び」
富岡中学校3年 塚本 千枝

●財団法人 横浜市安全教育振興会 理事長賞

写真の部

「コスモスの中の昼食」
洋光台第一中学校 教職員
橋立 豊

ポスターの部



「早寝早起き心がけよう」
中和田小学校6年 瀬川 遼佳



「横断歩道は手をあげて」
西築小学校5年 星 めぐみ



「麻薬危険」
日原山中学校1年 島田 優

●横浜市PTA連絡協議会 会長賞

写真の部



「地蔵楽団」
洋光台第一中学校1年 市川 芳道

ポスターの部



「かきしめて びろぼうさんバイバイ」
瀬谷第一小学校5年 青木 優佳

ポスターの部



「禁薬禁止」
日原山中学校3年 泉 彩音



「Sky & Sea」
本郷中学校3年 川原 由香子

●神奈川新聞社賞

写真の部



「上高地」
洋光台第一中学校2年 岩崎 廣和

ポスターの部



「ルールを守っているかな?」
中丸小学校4年 藤山 恵心



「緑と地球はほくらをすくう」
幸ヶ谷小学校4年 山岸 由佳



「その指一本で省エネ可能」
富岡中学校3年 越田 あきほ

加入状況

平成18年度加入状況

校種	校数	賛助会員数	世帯数
小学校	350	350	147,235
中学校	146	146	65,285
高等学校	4	4	3,095
盲ろう養護学校	11	11	1,168
総計	511	511	216,783

平成18年度役員・審査委員名簿

顧問	横浜市教育委員会教育長 押尾 賢一		
役職	氏名	備考	
理事長	嶋 文隆	学識経験者 保護司 人権擁護委員	○
常務理事	古野 富雄	学識経験者 主任児童委員	○
常務理事	齋藤 武彦	学識経験者 元横浜市PTA連絡協議会会長	○
理事	河野 良雄	市教委 学校教育部 小中学校教育課長	
理事	高橋 淳一	市教委 学校教育部 健康教育課長	○
理事	木下 好夫	市教委 生涯学習部 生涯学習課長	○
理事	古川 伸孝	小学校長会代表 青木小学校長	○
理事	岸田 公一	中学校長会代表 大島中学校長	○
理事	石橋 勝廣	盲ろう養護学校代表 君南白ひの養護学校長	
医師理事	鳥山 紀樹	学識経験者 鳥山整形外科院長	○
理事	渡邊 薫	学識経験者 元小学校長	
理事	長谷岑二郎	学識経験者 元中学校長	
理事	遠藤志津江	学識経験者 元横浜市PTA連絡協議会会長	
理事	三枝木鉄朗	学識経験者 民生児童委員	
理事	鈴木 由香	横浜市PTA連絡協議会 会長	○
理事	安田 渡	横浜市PTA連絡協議会 副会長	○
理事	鈴木 登	横浜市PTA連絡協議会 副会長	
監事	國原 章弘	市教委 総務部 総務課長	
監事	門倉 卓雄	横浜市PTA連絡協議会 会計	
医師	永持 和一	永持クリニック院長	○
医師	真部 修	真部歯科院長	○

○印は審査委員

見舞金等の給付

平成17年度見舞金等給付一覧表

平成17年4月1日～平成18年3月31日 (単位 円)

給付別種・事由・対象		給付件数	給付額
1 児童事故見舞金	(1) 傷害事故	児童	2,293 26,693,965
		生徒	173 2,261,665
	(2) 障害	児童	17 937,100
		生徒	2 109,680
	(3) 交通事故	児童	186 558,000
		生徒	22 66,000
	小計	2,693	30,626,410
2 児童生徒弔慰金	(1) 学校管理下外事故死	児童	1 500,000
		生徒	1 500,000
	(2) 交通事故	児童	1 200,000
		生徒	0 0
	(3) 登下校中の交通事故死	児童	0 0
		生徒	0 0
	(4) 病死等	児童	8 230,000
		生徒	9 250,000
小計	20	1,680,000	
3 保護者弔慰金	小学校	95 2,780,000	
	中学校	102 2,960,000	
	盲ろう養護	5 150,000	
小計	202	5,890,000	
4 PTA主催見舞金	(1) 傷害事故	35 733,700	
	(2) 障害	0 0	
	(3) 交通事故	5 15,000	
	(4) 事故死	0 0	
	(5) 往復途次の交通事故死	0 0	
	(6) 病死等	0 0	
	小計	40 748,700	
合計	2,955	38,945,110	
振込手数料	2,047	616,245	
総計		39,561,355	

平成18年度上期見舞金等給付一覧表

平成18年4月1日～平成18年9月30日 (単位 円)

給付別種・事由・対象		給付件数	給付額
1 児童事故見舞金	(1) 傷害事故	児童	873 10,419,695
		生徒	71 908,140
	(2) 障害	児童	5 486,350
		生徒	0 0
	(3) 交通事故	児童	54 162,000
		生徒	17 51,000
	小計	1,020	12,117,185
2 児童生徒弔慰金	(1) 学校管理下外事故死	児童	3 1,500,000
		生徒	0 0
	(2) 交通事故	児童	0 0
		生徒	0 0
	(3) 登下校中の交通事故死	児童	0 0
		生徒	0 0
	(4) 病死等	児童	3 90,000
		生徒	2 60,000
小計	8	1,650,000	
3 保護者弔慰金	小学校	25 750,000	
	中学校	26 780,000	
	盲ろう養護	1 30,000	
小計	52	1,560,000	
4 PTA主催見舞金	(1) 傷害事故	9 302,400	
	(2) 障害	0 0	
	(3) 交通事故	1 3,000	
	(4) 事故死	0 0	
	(5) 往復途次の交通事故死	0 0	
	(6) 病死等	0 0	
	小計	10 305,400	
合計	1,090	15,632,585	
振込手数料	772	228,165	
総計		15,860,750	

修学奨励金の給付

小学校	155人	
中学校	50人	
高等学校	6人	
盲ろう養護学校	11人	
計	222人	7,380,000円

(給付額は小学生3万円、中学生4万円・高校生5万円)

安全教育推進団体に対する助成

1. 申請のあった単位PTAへ対する助成 1校4万円 (上駄)	416校	16,638,000
2. 区・部会PTA講演会研修会等助成		3,503,898
3. 横浜市PTA連絡協議会事業助成		2,950,000
4. 第11回野島クリスマスキャンプ事業助成		100,000
第13回若者の飲酒を考えるフォーラム事業助成		200,000
第4回学校給食展示会助成		200,000
横浜教育フェスティバル助成		350,000
第26回中学生人権作文コンテスト神奈川大会		100,000

会報の発行

第28号 平成19年2月28日 加入校全世帯へ配布

区・部会講演会研修会の開催

区名	開催日	会場	事業名	講師
鶴見	18.12.2	鶴見公会堂	この手・親の手・地域の手・結ぼうPTA	毛利 元貞
神奈川	18.9.9	神大寺小体育館	オリンピックを走って得たもの	宇佐美彰朗
西	19.2.16	西公会堂	心にひびくコミュニケーション	朝岡 聡
中	18.11.28	山元小コミュニティハウス	落語入門	三遊亭遊吉
南	19.1.20他	港南公会堂他	算数っておもしろい! 小・中学生との接し方	細水 保宏 小山内美江子
港南	18.10.31	港南公会堂	人は人とのかわり方で成長できる!	義家 弘介
保土ヶ谷	18.9.7～19.2.6	各小中学校	9研修分科会(各委員会)	
旭	18.11.29	旭公会堂	私の戦後史 ～平壤、横浜、千葉、岩手で過ごした日々～	将基面 誠
磯子	19.2.10	杉田劇場	「サザエさん」に見る これからの家族について	増岡ひろし
金沢	19.1.30	磯子公会堂	命の大切さを伝える ～ホスピスから学ぶ命の授業～	小澤 竹俊
港北	19.1.13	港北公会堂	生きる力を育むために ～ホスピスから学ぶ子育てのヒント～	小澤 竹俊
緑	19.2.9	緑公会堂	好きな物だけ食べたい子どもと どう向き合っていくか?	百崎 満晴
青葉	18.11.24	青葉公会堂	生きる力を育むために ～ホスピスから学ぶ子育てのヒント～	小澤 竹俊
都筑	19.2.24	都筑区役所会議室	親子パネルディスカッション ～親子で楽しく本を読みましよう～	高橋 惣一
戸塚	18.12.8	戸塚公会堂	言葉が子どもを変える	山岸 弘子
栄	18.12.11	栄公会堂	大切なものは何ですか? ～今求められる家族の絆とは～	大野 靖之
泉	18.11.11	泉公会堂	出会い ふれあい 語り合い	松本 純
瀬谷	18.11.25	南瀬谷小体育館	子どもたちの未来のために、 今親がすべきこと	本田 正純 他
高校	18.6.9	ホテル横浜ガーデン	行動をうながす指導力とは	大後 栄治
盲聾養護	19.1.23	養護教育総合センター	こころのサインを見のがしていませんか? ～「うつ病」を正しく理解しましょう～	松尾ゆかり

安全教育推進団体に対する助成

—各団体における活動の一コマ—

横浜市PTA連絡協議会助成

事業▶第23回山下公園ファミリー写生大会
実施日▶平成18年4月29日(土)
展覧会▶平成18年5月26日(金)～5月29日(月)
場所▶山下公園 桜木町びおシティ
参加者▶約10,000名

当初の予定日が雨だったため、4月29日に実施したため参加者が例年より少なかった。また、29日も午後から雨が降り出し参加者は苦労して描いていました。しかし例年と同じく良い作品が描きあがりました。



区・部会講演会研修会助成(区研修会事例)

事例▶旭区PTA連絡協議会
事業▶私の戦後史
 ～平塚、横浜、千葉、岩手で過ごした日々～

講師▶将基 誠
実施日▶平成18年11月29日(水)

会場▶旭公会堂
 講師の生き方から「命の大切さ」や「親子の絆」を学んでいただきたく講演会を実施。参加者は区内の小、中学校の保護者、教職員等440名。



単P事業助成(小学校事例)

小学校事例▶横浜市立北方小学校 PTA
事業▶「かしてい子どもを育てるおこづかいトレーニング」
講師▶NPO法人楽学生活協会(金子フランク、岩下桂子)
実施日▶平成18年10月23日(月)

子育ての目標である、子どもの自律には、自分を律する自律力が必要です。子どもの自律力を育てるために家庭でできる実践トレーニングとして、「おこづかい」はどのように有効なのか。子どもに伝える金銭教育の大切さや、おこづかいがどのように子どもの自律に関わっていくのかについて、また、講師である岩下桂子さんの、「岩下家のおこづかい」の実例や、おこづかい極の具体的な記入方法などを、2部形式で講演していただきました。



単P事業助成(中学校事例)

中学校事例▶横浜市立汲沢中学校 PTA
事業▶スポーツと健康を学ぶ
実施日▶平成18年10月21日(土)
講師▶岩崎 由純

スポーツトレーナー岩崎由純氏の講演会を行いました。運動部所属の生徒をはじめ、保護者、地域の方々にも参加していただき、ユーモアを交えたお話に会場は盛り上がりしました。世界的に有名なスポーツ選手達の心温まるエピソードなどから、常に感謝する気持ちを忘れずにいること、プレッシャーを克服して人生を楽しむ方法など、スポーツの感動体験を通じて、心を成長させていく素晴らしさを教えていただきました。



第11回 野島クリスマスキャンプ2006

野島クリスマスキャンプは、今年で11回目を迎えました。12月2日のふれあいの会ではボランティアの研修、保護者説明会そして、参加児童生徒とボランティアとの交流です。事前に交流しているのが直ぐに打ち解け、クリスマスディナーを作ったり、キャンドルファイヤーではクリスマスに相応しい演奏を聴いたり、2日目は変装仮面を作って舞踏会で踊ったりして楽しく2日間を過ごしました。

日時▶平成18年12月2日(土)ふれあいの会
 平成18年12月16日(土)～17日(日)

場所▶横浜市野島青少年研修センター
参加▶児童生徒44人 保護者13人 ボランティア67人 実行委員22人



第4回 学校給食展示会

日時▶平成18年12月2日(土)
場所▶新都市プラザエブリデイ(そごう地下2階入り口前広場)

参加▶市民のみなさん(3000人)
内容▶市民の皆さんに、給食の展示を通して学校給食についての理解を深めてもらうことを目的に、給食を構成する栄養管理や地産産野菜を取り入れることへの取り組み、親と子の食生活相談などの展示イベントを実施。多くの市民の皆さんの参加をいただき、例年以上の会場での盛り上がり、学校給食への関心の高まりと、認識の深まりを実感することができました。



第13回若者の飲酒を考えるフォーラム

日時▶平成18年11月26日(日)
会場▶横浜市社会福祉協議会4階ホール
 平成18年11月26日(日)に横浜市社会福祉協議会において、若者のアルコール関連問題の現状をより多くの人に理解していただくことと関連問題の予防をしていくために、若者自身と彼らを取り巻く人々や社会環境の望ましい在り方を考えることを目的とした第13回若者の飲酒を考えるフォーラムを開催いたしました。ご来場者は約200名で、パネルディスカッションでは、ご来場者とともに熱心な意見交換が行われました。

